



『都城志布志道路(松山~有明北間)開通』

2月15日(金)、都城志布志道路(松山~有明北)の開通式が有明北インターチェンジで行われ、開通式には近隣の市町長をはじめ、多くの関係者や地域住民が参加し、約80台もの自動車が列をつくりました。

この都城志布志道路は、都城市を起点として、曾於市末吉町、志布志市松山町・有明町を経て、同志布志町に至る延長約40kmの地域高規格道路で、これが全線整備されると、これまで約70分かかっていた都城~志布志間が約40分に短縮され、地域間交流が活性化されることが期待されています。

大崎町からも利用が多いであろう都城志布志道路。ぜひ、安全運転で快適なドライブをお楽しみください。

『九州ふるさとの森づくりinくにの松原』

2月24日(日)大崎町と九州電力鹿屋営業所が共同開催として今年で2回目となる「九州ふるさとの森づくりinくにの松原」が行われ、菱田海岸には約200人のにのぼる多くの人が集まりました。参加者には多くの親子連れが見受けられ、移植ゴテを持った子ども達は、我先にと木の苗を植えていました。

当日は、アキグミ・トベラ・マツの苗計3000本が植栽され、昨年の1800本と合わせると4800本にもものぼります。10年後、20年後の菱田海岸の姿を想像すると、非常に楽しみになります。



『鹿児島路を走る！県下一周駅伝！』

駅伝が盛んなことで有名な鹿児島県。毎年恒例の県下一周駅伝競走大会が今年で55回目を迎え、2月16日から20日までの5日間で開催された。12地区から選ばれた勇者達は、日ごろ鍛えた健脚を競いあい、北風吹き荒れる鹿児島路を駆け抜けた。

優勝争いは、3日目まで始良と曾於の一騎打ちの展開。曾於は、4日目地元入りに期待がかかった。国分南中をスタートした1区の選手は、4日目の全コースの中で一番の難所、国分から牧之原へ登る「心臓破り

の亀割峠」を越えなければならない。各チームから坂男が名を連ねるなか、この難コースを制したのは曾於だった！勢いに乗った曾於は続く2区・3区・4区と区間賞が続き、このまま曾於が日間優勝かと思われたが、初の7年連続優勝が懸かる始良が終盤底力をみせ、ついに曾於を8区でとらえ、そのまま振りきった。

中継地点がある旧ダイユー前には、小学生や地域住民など数え切れないほどの人が応援に駆けつけ、赤や黄の旗を振りながら声援を送った。

総合優勝は始良の5日間を制す「完全優勝」で幕を閉じたが、最終日まで優勝争いを演じ、5日間を走り抜いた曾於の選手たちに拍手を送りたい。

